～世界の景気と新興国債券について～

◆中長期でみると、世界の景気動向と新興国債券の米国国債との利回り格差（スプレッド：新興国債券利回り－米国国債利回り）は相関が高くなっていると思われます。
世界景気の回復局面では、新興国債券の対米国国債スプレッドは縮小し、相対価値は上昇する傾向にあります。逆に、世界景気の後退局面では、新興国債券の対米国国債スプレッドは拡大し、相対価値は下落する傾向にあります。（下図）

◆世界の景気動向を、グローバル製造業購買担当者指数（PMI）（※）で見てみると、8月末では、年初から－2.4ポイントとなり、世界的にはゆるやかな景気減速局面となっています。
一方、新興国債券の対米国国債スプレッドは、8月末で年初から－0.88%と縮小し、新興国債券の相対価値は上昇しています（下図）。

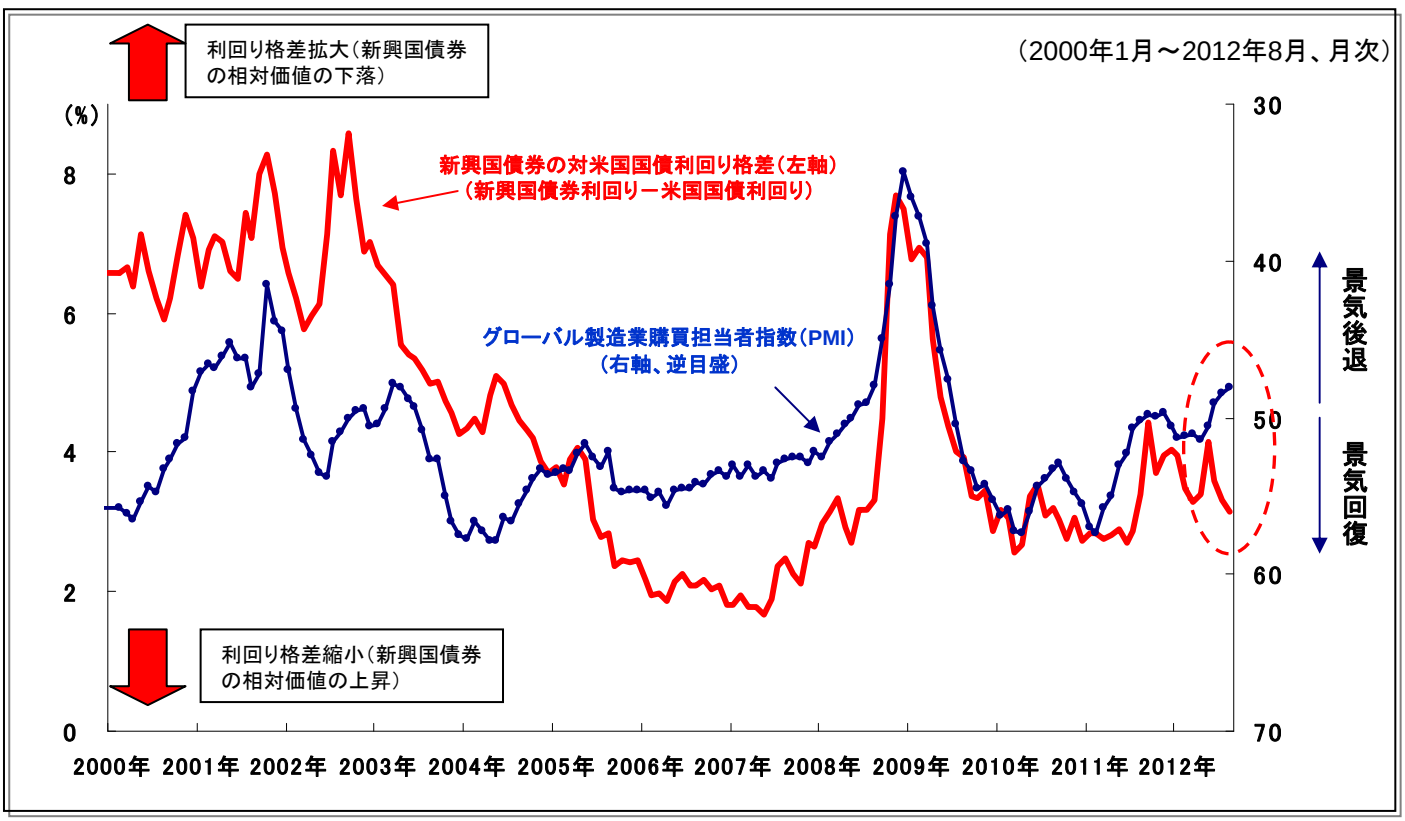
◆中長期的な相関と、最近の動向が合致していない原因は、世界各国の金融当局が、世界経済のさらなる景気減速に備え金融緩和政策を継続し、低金利を維持していることによると考えられます。

◆このような局面では、相対的に高利回りの債券を保有し高い利息（クーポン収入）を得るという投資戦略が有効とされ、新興国債券は物色の対象とされています。

◆先進国の金融緩和政策は当分の間継続し、新興国債券の利回りは相対的に高い水準を維持すると考えられ、投資対象としての魅力は持続すると思われます。

（※）景気の先行きを示す指標のひとつ。世界的な製造業の購買担当者に生産意欲などをアンケートして指数化したもの。PMIが50を超えると景気回復を示し、50未満だと景気後退を示す。

【グローバル製造業購買担当者指数（PMI）と新興国債券の米国国債との利回り格差】



出所：Bloombergのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

当資料は市場環境に関する情報の提供を目的としてニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
<審査確認番号H24-TB52>